

平成 24 年 2 月 3 日

学生と共に考えるシラバス改善のための調査・研究活動報告書

シラバス改善プロジェクト

1. 調査・研究目的

シラバスを通して、本来の授業の目的と講義内容を正しく理解し、より多くの学生が期待に合った科目が受講できるように、より魅力的なシラバスの改善を図る。

学生の視点からシラバスを評価し、学生の改善アイデアを提示することにより、学生にとってより知的的好奇心を持つことができる魅力的なシラバスの改善活動につなげる。

2. 調査結果要約：三つの Key Findings

- 学生の視点からのシラバスの品質評価は、「授業内容」や「到達目標」などの7項目を重視して評価していることが分かった。(表 2.参照: プレーンストーミングにより表出)

学生が判断した悪いシラバスの評価点は、平均 **49.13** ポイント。これに対して、良いシラバスの平均は **77.07** ポイントで、約 **28** ポイントもの差がついている。

とくに、悪いシラバスの最低点は **38.1** ポイントに対して、良いシラバスの最高点は **90.8** ポイントと、約 **53** ポイントもの大差がついている。(図 1.参照)

なお、学生が期待する良いシラバスの要件については、「シラバス品質機能展開表」としてまとめた。これをベースとして、今後の向上のための議論や改善活動につなげていただきたい。(7 ページ.表 3.参照)

- 学生のシラバスの品質(良し悪し)の判断では、客観的な見た目も大切で、定量的な情報量(文字数)に差があらわれることが分かった。(図 4.参照)
- とくに、「教員の熱意・独自性」などの定性的な表現が記述されているかが、学生のシラバスの良し悪しの判断に大きく影響していることが分かった。(図 3. & 図 5.参照)

3. 調査方法・期間・プロセス・Key Findings

3-1. 調査対象の選択：共通教育科目の中で、前期受講者数 5 名以下の科目(76 科目)を検証し、13 科目を選択して行った。63 科目を調査対象から除外した理由は、シラバス以外の原因で受講人数が少ないということが想定されるものが多くあったため、より正確な調査をするためである。

調査対象から除外した科目数と想定される原因については、別表にまとめた。(表 1.参照)

3-2. シラバス改善プロジェクトの編成：参加学生によるワークショップ・スタイルの調査と討議を重ねるプロセスをとった。参加学生は、以下の 11 名(留学生 2 名を含む)。

綿谷亮 (基・4)・田中達也 (外・4)・塩飽義大 (工・3)・梅澤奈央 (文・3)・町田耕一 (外・3)・加賀陽子 (法・2)・大杉明日香 (法・1)・酒井友里恵 (法・1)・佐々木美和 (外・1)・Seung Hwan Song (基・1)・Dongho Shin (法・1)

3-3. 調査期間：昨年 11 月 4 日から今年 2 月 1 日まで、計 16 回(24 時間)実施した。

平成 24 年 2 月 3 日

表 1. シラバス以外と想定された原因と調査対象から除外した科目の内訳数

シラバス以外の原因	学生からの意見	評価科目数
基礎セミナー特有の問題	<ul style="list-style-type: none"> ・開講曜日、時間が同じの場合、他に魅力的な授業があるとそちらへ流れてしまう ・抽選に落ちて再応募する負担が大きい (KOANでの応募、確認ができない) ・応募のために長期休み途中で大学へ出向く負担が大きい (特に帰省中の学生にとって) ・単位上1授業取れば足りることが多く、半期で受講を済ませてしまう学生が多い 	47科目
内容の特殊性	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語や、選択外国語(モンゴル語や上級外国語)は受講希望者自体が少ない 	20科目
異なるキャンパスでの開講	<ul style="list-style-type: none"> ・1回生を対象とした授業が吹田で開講されている 	3科目

表 2. シラバスの重点評価 7 項目と詳細内訳例およびウェイト
(ウェイトは、次ページで述べるシラバスの客観的評価に用いた。
各ウェイトの満点は 20 点、全体で 100 点満点になるように設定)

	評価項目	評価項目の詳細(例)	ウェイト
A	授業内容が理解しやすく簡潔に記述できている	<ul style="list-style-type: none"> ・学生を主語にした文章である ・表現方法に工夫がなされている (例: ! や? などの符号の使用や疑問形の文体での表現) 	20
B	授業の到達目標(何が身につくか)が明確である	<ul style="list-style-type: none"> ・受講を通して何ができるようになるのが明らかである ・具体的な到達目標が記載されている(例: TOEICスコア) 	20
C	受講生に期待する姿勢や必要能力が明記できている	<ul style="list-style-type: none"> ・求める受講態度が明示されている (例: 意欲的な学生を求めます・沢山発言して下さい) ・予習復習の有無が明確である 	13
D	成績評価の方法と基準が明示できている	<ul style="list-style-type: none"> ・評価方法が明示されている(例: レポート・ペーパーテスト) ・評価基準が明記されている(例: レポート50%・テスト50%) 	13
E	担当教員の授業への熱意や独自性が感じられる	<ul style="list-style-type: none"> ・文章量が不足していない ・担当教員からのコメントやメッセージが記載されている (例: ~について考えてみたい人!) 	12
F	受講生の興味をひく(魅力的な)講義名である	<ul style="list-style-type: none"> ・個性的な講義名である ・サブタイトルが記述されている 	12
G	授業の必要性が明快である	<ul style="list-style-type: none"> ・背景(社会情勢・日常生活など)との関連性が明快である(例: グローバル社会) ・他の授業との連続性が明確である(例: イタリア語初級→イタリア語中級) 	10
			100

平成 24 年 2 月 3 日

3-4. 調査プロセスと Key Findings

表 2.で示した評価項目に基づき、悪いシラバス(13 科目)の評価を行った。同時に、学生が良いシラバスだと感じる科目(10 科目)を選択した。同様の評価を行うことにより、評価項目の妥当性を調べた。さらに評価項目ごとの詳細を見ることにより、悪いシラバス・良いシラバスで、大きく差があらわれるのは、どの評価項目であるかを調べた。(図 1・図 2) その結果、以下の [Key Findings 1.] が明らかになった。

- 悪いシラバス・良いシラバスでは、評価の平均が、それぞれ **49.13** ポイント、**77.07** ポイントとなり、両者のシラバスで約 **28** ポイントの差が明らかとなった。
とくに、悪いシラバスの最低点は **38.1** ポイントに対して、良いシラバスの最高点は **90.8** ポイントと、約 **53** ポイントもの大差がついている。(図 1.参照)
- また、悪いシラバスの中で最も低い点数は、「E：担当教員の授業への熱意や独自性が感じられる」の評価項目であった。良いシラバスとの差が顕著にあらわれた。(4 ページ.図 2.左図を参照)
- 学生のシラバスの品質(良し悪し)の判断では、客観的な見た目も大切で、定量的な情報量に差があらわれることが分かった。(5 ページ.図 4.参照)
- とくに、「教員の熱意・独自性」などの定性的な表現が記述されているかが、学生のシラバスの品質・優劣の判断に大きく影響していることが分かった。(図 3. & 図 5.参照)

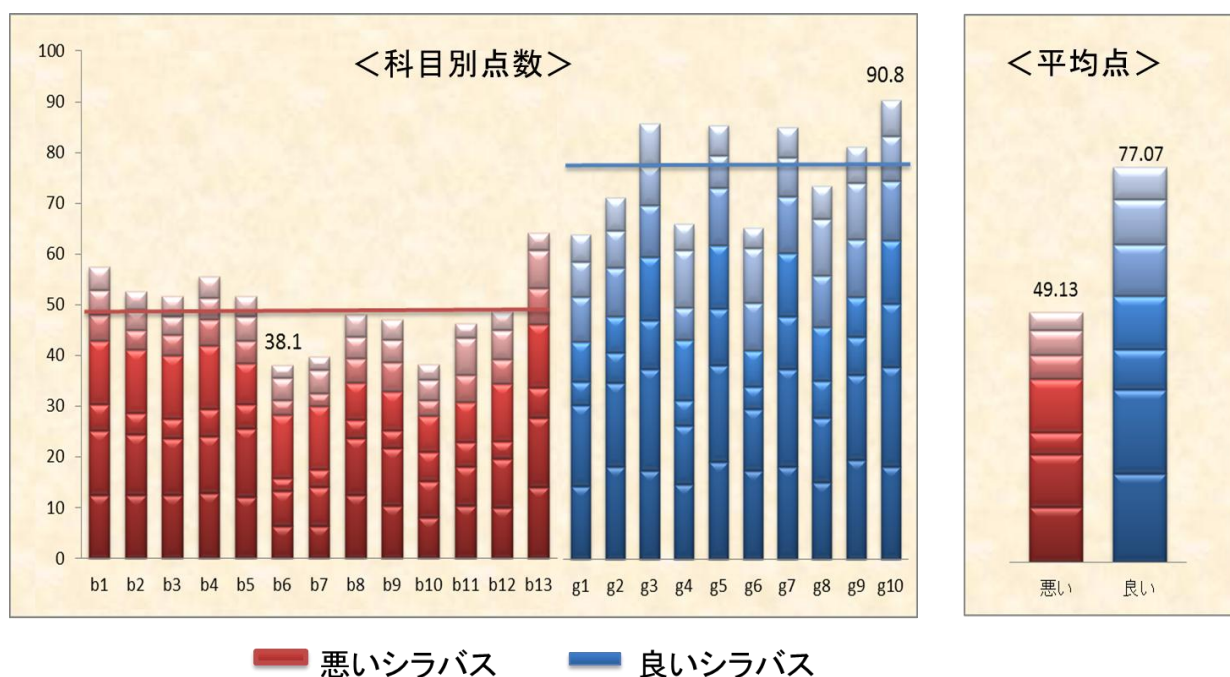


図 1. 悪いシラバス(b1-13)・良いシラバス(g1-10)の評価結果の総合ポイント比較

平成 24 年 2 月 3 日

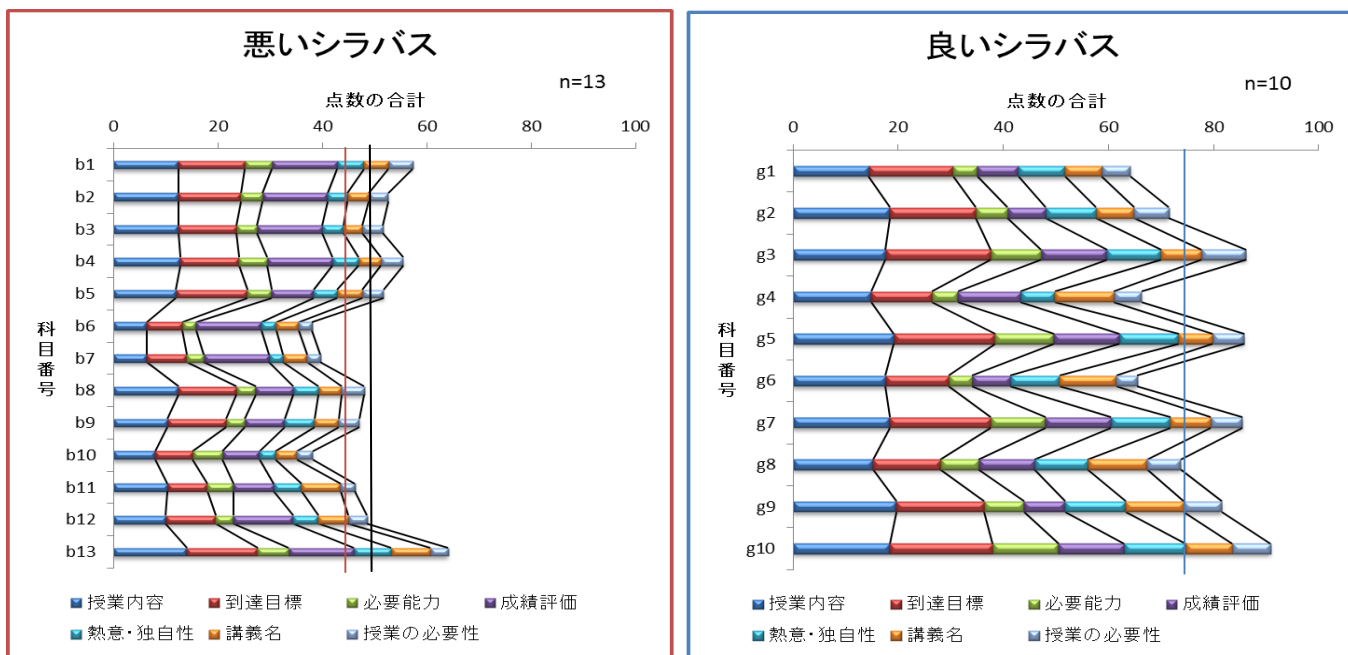


図 2. 悪いシラバス・良いシラバスの総合評価ポイントの各項目別(内訳)比較

[Key Findings 2.]

「熱意・独自性」の項目が大きく影響を与えることは、良いシラバス・悪いシラバスの平均点の差を比較した下図 3.からもよく分かる。両者のシラバス間で、「熱意・独自性」の評価点が最も大きな差がでていることから、とくに影響を与えることが分かった。

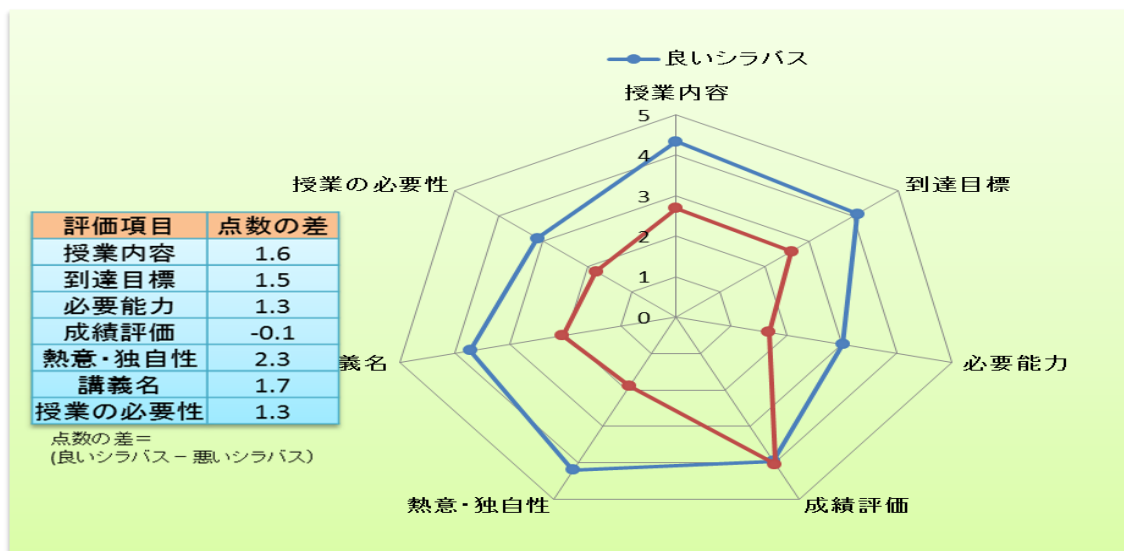


図 3. 良いシラバス・悪いシラバス間での各項目の平均値

平成 24 年 2 月 3 日

[Key Findings 3.]

良いシラバスは、講義内容に独自性が見られ、またコメント欄に学生に対しての呼びかけのメッセージ(「一緒に楽しく数学しましょう!」「~を考えて行きましょう」)の工夫があることが分かった。(図 4.)

一方、悪いシラバスは、全体的に空白が多く、シラバスに記載される文字数がきわめて少ないことが分かった。情報量不足が評価に影響を与えていると考えられる。(図 4.左)

また、悪いシラバスは、学生へのコメント欄にほとんど記載がみられないことが分かった。ここから「熱意・独自性」が希薄であると感じたと考えられる。(図 4.左)

下記の良いシラバス事例は、90ポイント・86ポイントときわめて高い評価点であるのに対して、悪いシラバス事例は、共に38ポイントという低評価であった。

下記のサンプル事例評価だけでも、48~52ポイントの大差があることが分かった。

科目名		担当教員	
英文科目名		所 属	
授業の目的	語の基礎を習得することを目的とする。簡単な読みものが読めるくらいレベルを目指す。		
講義内容	を用いて授業を進める。Iで終了したところから開始する。		
第1週	第11課		
第2週	第12課		
第3週	第13課		
第4週	第14課		
第5週	第15課		
第6週	第16課		
第7週	第17課		
第8週	第18課		
第9週	第19課		
第10週	第20課		
第11週	読みの1		
第12週	読みの2		
第13週	読みの3		
第14週	読みの4		
第15週	文語の紹介		
教科書			
参考文献			
成績評価	学期末のテストにより評価する。		
時間割コード	曜日・時限	火 4	単位数
科目名	サブタイトル		2
英文科目名		所 属	20名
講義室	サイバーメディアセンター		
授業の目的	社会調査に必要な統計ソフトの利用法を学ぶ。		
講義内容	統計ソフトを利用して社会統計の基礎技法を学ぶ。		
(1)	利用の基本		
(2)	基礎統計量		
(3)	グラフ表現		
(4)	相関・回帰		
(5)	推定・検定		
(6)	多変量解析		
教科書	パッケージとしては SAS (Statistical Analysis System) または、R を用いる		
参考文献	適宜、指示する。		
成績評価	小課題、自由研究		
コメント	サイバーメディアセンターの端末操作ができること。		

科目名	数学の考え方	サブタイトル	数学の基礎・標準的な数学の考え方としての数学のものの見方・考え方	担当教員	菊池和徳
英文科目名	Basic Ideas of Mathematics			所 属	理学研究科
授業の目的	【授業目的】 みなさんにとって「数学って何でしょう?」人試科目の一つ、日常生活にはあまり役に立たないもの、無味乾燥な公式や解法の集まり、という回答が多そうです。しかし数学は本来、試験問題を解くだけのものではなく、日常生活に至る所で実際に役に立っており、そもそも面白く楽しいものなのです。この授業では、文系学部(理系学部)の学生が興味を持つような具体的な話題をもとに、入試科目としての数学から思考の道具・論理の原形・自然の性質としての数学へ、チャップを極める精選しをすとともに、数学的なものの見方・考え方を深しんでもらおうと思います。必要な予備知識はほとんどが高校1年以下のレベルの初等的なものです(そのレベルを超えるものについてはハンドアウトで補います)。				
到達目標	【到達目標】 ①入試科目としての数学という強力なイメージを払拭すること。 ②中学レベルの数学の意味・価値・関係に認識的に転換すること。 ③数学とは一見無関係なものや数学との関係に関心をもつこと。 ④思考の道具、論理の原形としての数学の考え方を築くこと。 ⑤自然の言葉、空間の図形としての数学の役割を認識すること。				
講義内容	上記の目的・目標を達成するため、以下の項目・トピックについて講義をします。 0. ようこそ～受講歓迎から注意事項へ 1. はじめに～試験科目から学習原形へ 2. ふうけい～解法暗記から現象把握へ 3. そもそも～手続計算から意味理解へ 4. からくり～意味理解から仕組認識へ 5. つながり～仕組認識から関係考察へ 6. みとおし～試行錯誤から鳥籠図示へ 7. ほねぐみ～複雑状況から単純性格へ 8. しすてむ～論理理解から体系認識へ 9. どうさつ～英語理解から添削対策へ 10. かんかく～知識伝承から共通性へ 11. へんげい～意味理解から平易理解へ 12. とうぜん～基礎知識から明瞭理解へ 13. つりあひ～個別理解から統一視点へ 14. ひろがり～統一認識から自在解釈へ 15. おおむね以上の順序で内容を講義を進めます。ただし、順序も内容もあくまで予定です。受講生のレポートやWebCT掲示板でのやり取りの確をながめながら変更することもあり得ます。 教科書：ありません。毎回ハンドアウトを配付します。 参考文献：授業の中で紹介します。 成績評価：毎回(最終回を除く)書いてもらう簡単な小レポート(20%)と最終回に提出してもらう期末レポート(80%) コメント：期末レポートを除いて準備は一切ありません。必要な予備知識や参考文献はハンドアウト等で補います。必要事項をみたレポートを提出すれば必ず返事は得られます。インタラクティブな質問・回答を重視します。日常生活でも専門課程でも就職活動でも役に立つもの(見方・考え方)のヒントを提供できる授業であると信じます。数学に関してこだわっている狭く苦しんで入試から自由になって、一緒に楽しく数学しましょう!				
時間割コード	137005	曜日・時限	水 2	単位数	2
科目名	西洋の歴史	サブタイトル	市民のための世界史	担当教員	秋田 茂
英文科目名	History of Europe			所 属	文学研究科
授業の目的	現代社会では、外交やビジネスだけでなく日常生活や近所づきあひまでが国際化し、そこに歴史や文化がかわる。この講義は、高校世界史を十分学んでいない学生(世界史をまったく履修しなかった学生だけでなく、世界史 A で歴史の断片しか学ばなかった学生、世界史 B で暗記に終止し歴史や考え方が身につかなかった学生を含む)をおもな対象として、大航海時代以降、現代にいたるまでの世界史の見方を、西洋世界(ヨーロッパ・アメリカ)の動向に注目しつつも、それを相対化する新たな「世界史」(グローバルヒストリー)の歴史像を提示したい。				
到達目標	到達目標：西洋史についての基礎的知識と、それをもとに現代世界の諸問題を考え論じる習慣を身につけること。				
講義内容	1. 大航海時代とルネサンス 2. スペイン帝国とオランダの覇権 3. 17世紀の全般的危機 4. 英仏の覇権争いと大西洋三角貿易 5. 環大西洋革命 6. イギリスの覇権(バックス・ブリタニカ) 7. 世界の一体化とアジア世界 8. 帝国主義時代 9. 第一次世界大戦とロシア革命 10. 戦間期の世界 11. 第二次世界大戦 12. アメリカの覇権(バックス・アメリカナ)と冷戦 13. 現代世界と「東アジアの奇跡」 14. 現代課題 15. グローバルヒストリー 以上の順序で講義を進める。ただし、これはあくまで予定であり、変更することもあり得る。「高校の補習」ではないので語句・年代の暗記は最低限にとどめ、全地域を網羅的にカバーすることにもこだわらない。世界史の大きな流れ、因果関係、諸地域間の関係性を的確に把握し、現代世界の歴史の起源を理解できるように基礎的知識の習得・整理を行う。				
教科書	『新詳世界史 B』帝國書院、900 円程度。 水島司著『グローバル・ヒストリー入門』山川出版社、2010 年。 ほかに毎回プリントを配布する。				
参考文献	『最新世界史図説タペストリー』(帝國書院)を推奨したい。				
成績評価	毎回の小テスト(50%)と期末テスト(50%)				
コメント	従来の見方と根本的に異なる、アジアを重視した世界史像を皆さんといっしょに考えていきたいと思います。役に立つ、おもしろい世界史を考えていきましょう。				

図 4. (左 2 科目)悪いシラバスであると評価したシラバスの例 (上段 b6、下段 b10)
(右 2 科目)良いシラバスであると評価したシラバスの例 (上段 g10、下段 g5)

平成 24 年 2 月 3 日

4. 改善提案と今後の展開

4-1. [改善提案 1] シラバスに新たな項目(「到達目標」「学生への期待」)を設定すること

今回の調査で用いた七つの評価項目(表 2 参照)を通し、現状のシラバスでは「熱意や独自性」が希薄であることが分かった。

しかしながら現状のシラバスでは、このような項目を記載することが義務付けられているわけではない。このため、より魅力的なシラバスを作るために、「学生への期待」、および「到達目標」などを必ず記載することを義務付け、シラバスの質向上に向けた改善を進めるべきであるとする。

とくに「熱意」が感じられるとして、学生が選んだ具体的なシラバス事例を図 5 に示す。

時間割コード	131409	曜日・時限	木 1	単 位 数	1	履修対象	工(理・電)
科 目 名	フランス語初級 I					担当教員	高 岡 優 喜
英文科目名	Beginning French I					所 属	非 常 勤
<p>授業の目的：一年間で初級文法をほぼ終える予定です。全員がゼロからのスタートです。英語の好きだった人も、嫌いだった人も、新しい気持ちで新しい言語に取り組み、未知の言語、未知の文化に触れ、より広い世界を知るための一歩を踏み出しましょう。CD 付きのテキストですから、家でも十分に音を聴くことができます。自分の口がまだ出したことのない様々な音に挑戦してみてください。</p> <p>講義内容：教科書及びドリル、教師の作成プリントでフランス語の骨組みを 1 から学んでゆきます。その日に学んだ事項の理解を次回授業時に小テストで確認します。教科書以外にも、さまざまな資料(音楽、映像)を通して、現代のフランスそのものにも触れていただくつもりです。語学学習の初歩はスポーツと同じです。体が覚えるまで、さばらないことが肝要です。遅刻、欠席、居眠りは厳禁！気合を入れてご参加ください。</p> <p>教科書：春木仁孝他／『新・フランス語文法』、朝日出版社／ISBN4-255-35150-3 参考文献：授業中に指示します。</p> <p>成績評価：毎回の小テスト(20 点前後) x 13 回分と、期末テスト 100~150 点の合計を 100%として計算します。そこに平常点を加味します。小テストの合計は期末テストの点数をはるかに超えます。日ごろの努力が実を結ぶのと同時に、直前になってあわててももう遅い、ということになります。ご注意ください。</p> <p>コメント：小テストの合計は結果的に期末テストよりも点数が多くなります。ゆえに、日頃頑張っていれば、期末テストには余裕で臨めます。頑張りましょう。やったことを確実に毎回こなしてゆけば、点数は簡単に取れます。なお、早朝一時間目の授業のせいか、時に睡眠不足を補おうとする学生さんが少数ですがあります。うとうとくらは許容範囲ですが、完全に机に突っ伏して熟睡している場合は、その回は欠席とみなしますので、心して臨んでください。</p>							

図 5. 熱意があると学生が判断したシラバス例。

4-2. [改善提案 2] 質に問題があるシラバスをチェックする品保証体制の必要性

今回、悪いシラバスと良いシラバスを比較・検討することによって、両者の差が明らかに表れていることが分かった(図 4 参照)。このため、悪いシラバスが、そのまま掲載されるという現状の体制を改善し、提出以前に質のチェックをし、指導する何らかのシステムが必要であるとする。

4-3. [今後の展開] チェック基準となる品質機能展開表の精度の向上および教員用シラバスガイドラインの作成

今回は、評価人数(11 人)が少ない母体数で行った。そのため、評価項目自体の品質向上のため、さらなる見直し・改善活動をしていく必要がある。これにより、より魅力的なシラバスの改善活動を促進するツールとして、阪大独自の品質機能展開表を用いたシラバスガイドラインの作成を最終的にはめざしていきたい。

監修 木川田 一榮、服部 憲児
大阪大学 大学教育実践センター

平成 24 年 2 月 3 日

(補足資料 1)

表 3. シラバス品質機能展開表 (一次・二次のみ)

A : 授業内容が理解しやすく簡潔に記述できている
・ 具体的に記述されている。
・ 平易な言葉で簡潔に記述されている
・ 学生を主語にした文章である。
・ どこが難しい内容なのかが明記されている。
・ 読みやすいレイアウトで記述されている。
・ 各回の授業内容が明快である。
B : 授業の到達目標 (何が身につくか) が明確である
・ 受講を通して何ができるようになるのかが明らかである。
・ 具体的な到達目標が記載されている。
C : 受講生に期待する姿勢や必要能力が明記できている
・ 求める受講態度が明示されている。
・ 予習復習の有無が明確である。
・ 必要な事前知識が明記されている。
D : 成績評価の方法と基準が明示できている
・ 評価方法が明示されている。
・ 評価基準が明記されている。
E : 担当教員の授業への熱意や独自性が感じられる
・ 文章量が不足していない。
・ 表現方法に工夫がなされている。
・ 担当教員からのコメントやメッセージが記載されている。
F : 受講生の興味をひく (魅力的な) 講義名である
・ 個性的な講義名である。
・ 授業内容が理解しやすい講義名である。
・ サブタイトルが記述されている。
・ インパクトのある表現がなされている。
G : 授業の必要性が明快である
・ 背景 (社会情勢・日常生活など) との関連性が明快である。
・ 他の授業との連続性が明確である。

平成 24 年 2 月 3 日

(補足資料 2)

プロジェクトを通じた学生からの生の声 (抜粋)

1. 本プロジェクトを通じた感想

- ・空欄や空きスペースが多いシラバスが、思ったより多かった。【基 1】
- ・シラバスを書く側のやる気も問題かもしれないが、シラバスの項目不足も原因なのではないかと思った。【法 1】
- ・成績評価や授業でのコンテンツが記載されていない(もしくは記載されていても新生には分かりづらい専門用語などが多い)ために、シラバスでの授業選びがやりづらいつらわれた。このことが、クロバスでの授業選択の一因にもなっているのでは。【工 3】
- ・外部からも高評価の基礎セミナーであるが、今回の受講者が極端に少ない 7 4 科目のうち大半が基礎セミナーであったのが大変残念だ。データはないが、学生の後期の基礎セミナーに対する受講意欲が低いように感じられる。(基礎セミナーの評価については、大学研究家の山内太地氏による「実力が身に付く大学ベスト 20」参照)【法 1】

2. 現行シラバスの問題点

- ・学生からの授業評価や紹介文が記載されていない点。だから、生の声を反映したクロバスには負けてしまうのではないか。【法 2】
- ・「授業目標」や「授業内容」の欄をどこまで書いたらよいか具体的に決められていない。すごく詳しく書いているシラバスもあれば、簡単に 1~2 行でまとめているシラバスもある。【基 1】
- ・授業に対する教員の意欲や独自性が、シラバスの文面からは伝わってこない。【工 3】
- ・授業内容の学問的な意義が、あまり伝わってこないものがある。【法 1】
- ・シラバスの各項目(たとえば成績評価など)について、記載されていないものがある。たとえば「特になし」でもいいから記載していただくなど、シラバスを記載するうえで最低限守るべきガイドラインを制定すべきではないか。【外 4】

3. 今後の活動予定

- ・実践センター開講科目を多く受講する 1 回生にも、より広くアンケートとしてシラバスの評価を行ってみる。【工 3】
- ・シラバス改善のため、シラバスの体裁を一新したい(項目欄の検討・追加など)【基 4】
- ・フォーマットと同様、最低限記載すべき事項や良いシラバスとされている事例を盛り込んだ、シラバス作成にあたるガイドラインを制定していきたい。【外 4】